

平成9年度

地域畜産状況レポートNo.3

社団法人 熊本県畜産会

草地利用による褐毛和牛周年放牧

阿蘇郡阿蘇町跡ヶ瀬牧野組合

組合長 江入 幸和氏

熊本市から大津町のミルクロード沿を進んでいくと、世界一の火山、阿蘇山北外輪の標高約930mの高地に大規模な跡ヶ瀬牧野組合があります。みんなで築いた跡ヶ瀬牧野組合26年の歩みと発展を紹介します。

牧野組合の背景

阿蘇郡には約1万ヘクタールの改良草地と野草地約1万3千ヘクタールがあり、放牧や採草に利用されています。本年は11牧野組合で、採草地の3番草や野草地を利用して、放牧への切り替え、放牧の期間延長が実施されてきました。跡ヶ瀬牧野組合では従来4月上旬から11月下旬までの放牧で夏山冬里方式でしたが、放牧期間を1月16日まで延長することができました。そこで草地資源をフルに活用した周年放牧ができればもっと管理も楽になり、経費も安くなるのではと思い、昨年は組合員の4名が周年放牧にチャレンジしました。

跡ヶ瀬牧野組合の概要

(1) 牧野組合結成

国営事業阿蘇北外輪大規模草地開発事業による改良草地化され、和牛放牧事業並びに良質粗飼料生産供給を見るため、昭和44年4月跡ヶ瀬牧野組合は発足し現在に至っています。

(2) 管理運営体制



(3) 跡ヶ瀬牧野組合の規模

有畜農家戸数	16戸
飼養頭数	100頭
改良草地面積	87ヘクタール
野草地面積	177ヘクタール
冬季放牧頭数	34頭
冬季放牧面積	31ヘクタール

- 肉用牛の放牧と乾草生産販売（年間約420トン）が主な運営概要です。



跡ヶ瀬牧野組合員（前列右江入組合長）

周年放牧実施状況

(1) 牧野の草資源を有効に活用するため、採草地の1番草を5月下旬、2番草を8月中旬までに刈り取り、その後は施肥し冬期時期放牧地として利用します。昨年は降雨続きで1番草刈り取りが7月初めと遅れたため、2番草は刈らず、施肥後草地の繁茂状態も良くなりました。冬季の放牧は成牛のみ約30頭放牧しましたが、牧草が伸び過ぎて生育に問題を残したので、本年は2番草を8月上旬に刈り取りました。施肥後は生育良好であり、31ヘクタールの草地に成牛約34頭（妊娠牛）を輪換放牧しました。



放牧牛（11月）

- (2) 本年は1～2月に積雪が多く、牛は雪中の牧草を喰べていましたが、積雪の深い時期にはロールベールの牧乾草を補給しています。
- (3) 飲み水は苦勞しました。寒さが厳しく凍ることがあり、飲み水の凍り割りして水飲ができるようにしました。また、牛のスベリ防止対策をして、牛の事故防止につとめています。
- (4) 夏場の放牧は4月上旬から12月まで輪換放牧で成牛約84頭を実施しています。特に放牧牛をピロプラズマ病（ダニ熱）を予防するため、組合員の協同作業でパチコン剤の牛体散布を定期的に行っています。

周年放牧の成果

- (1) 冬場の草地は、採草地を7月中旬に1回刈った後施肥し、繁茂した草地は1月から放牧に利用しましたが、牧草が十分あるためやや枯れた草が多くなっていました。採草地は2回刈り取った後、8月のお盆過ぎから刈取りせずに牧草を伸ばしたほうが良い結果となりました。
- (2) 草も十分にあるため、冬の寒さにも牛は負けず、牛の健康状態もよい結果でした。厳しい寒さの時は、風の当たらない谷間の一ヶ所ですごし、採食は南向きの日の当たる草地ですごすなど、牛は自分で場所を選んでいます。
- (3) 牛は寒いのに外で放牧されています。牛のことを考えると自分はこたつでぬくぬくしていいのだろうかと思うようになり、冬場の餌やり、ぼろ出し等の管理も苦にならなくなりました。
- (4) 放牧中の分娩子牛は、下痢もせず順調に発育しています。
- (5) 放牧管理は当番制で、発情発見、分娩情况等は放牧日誌に記入しており、個人への連絡も確実にを行っています。
- (6) 苦勞した飲み水の対策として、凍らない給水器（スリフティーキング）2台と、現地飼養施設が2月に建設されました。
- (7) 農家の周年放牧への理解が深まり、増頭意欲が高まっています。
- (8) 冬季放牧牛の平均体重の推移（普及センター）

年 度	調査頭数	12月下旬(7月) 12月中旬(8年)	2 月	4 月上旬	体重増減率
7	10	561 kg	583 kg	570 kg	102%
8	13	504 kg	504 kg	—	100

2ヶ年ともに冬季放牧牛の体重はほぼ現状維持であり、家畜保健所の血液検査からも健康と判断されています。

- (9) 草と水があれば安定した冬季放牧ができます。ただし積雪が40cm以上の場合、補給飼料の給与が必要となります。
- (10) 冬季放牧している草地を4月上旬まで利用すると、1番草の収量低下のおそれがあります。



凍らない給水器（スリフティーキング）

今後の取り組みと目指す方向

今後は組合員全員で周年放牧に取り組み、現地飼養施設（2月完成）を活用し、肉用牛の増頭を図りたい。

低コストの肉用牛経営の推進を図って行く。一方牧乾草の販売を進め、跡ヶ瀬牧野組合の発展を目指したい。

レポーター

熊本県畜産会相談窓口員 森 敏 信



補給用ロールペーラ



退避舎と給水施設